

表1—4 水生植物の生育形による分類

<ul style="list-style-type: none"> ・根は水底に固着せず、水面または水中に浮遊している→浮遊植物： ホテイアオイ、ボタンウキクサ、ウキクサ、ノタヌキモなど ・根は水底に固着している <ol style="list-style-type: none"> 1. 葉は水面より上に伸びている→抽水植物：ヒメガマ、マコモ、カンガレイ、オオフサモ、ハスなど 2. 葉は水面に浮いている→浮葉植物：ヒシ、ガガブタ、ジュンサイ、ヒルムシロ、オニバス、ヒツジグサなど 3. 植物体は水面下にある→沈水植物：オオカナダモ、クロモ、ヤナギモ、ミズオオバコなど
--

川は岩熊まで静かな流れで、川土手にアジサイの植えられた付近ではキシヨウブやオランダガラシの群落も見られる。両河川とも上流は溪流となり、五月にはゲンジボタルが舞う。

五 水生植物群落

町内には大小四〇余りの溜池がある。山地の規模が小さく、傾斜が急で保水力に乏しいためにたくさんの溜池が必要となる。

近年、ほとんどの溜池で土手や側壁などの改修工程が行われてきたが、その割には多くの貴重な水生植物が発見された。おそらく工事の際に池の中のヘドロを完全に除去しなかったことが植物の保存につながったものと考えられる。また、溜池の周辺に人家が少なく、生活排水などの汚水の流入がないことが幸いしている。

調査は夏から秋にかけて行つたので、どの溜池も満水状態

表1—5 保護上重要な水生植物

種 類	福岡県レッドデータブックのカテゴリー	生 育 地
オオバシナミズニラ	絶滅危惧ⅠA類	上野（未確認）
ミカワタヌキモ	〃	二又池（ 〃 ）
ヤナギスブタ	〃	長迫池（ 〃 ）
ノタヌキモ	絶滅危惧ⅠB類	二又池、古池、長迫池
オニバス	〃	箕田大池
ミズオオバコ	〃	長迫池
センニンモ	〃	長迫池、加廊戸池
ガガブタ	絶滅危惧Ⅱ類	原田大池、綿打池
カワヂシャ	準絶滅危惧	岩熊
ジュンサイ	なし	古池、堂ヶ迫池、山田池
ヒツジグサ	〃	綿打池、古池
ミズワラビ	〃	小古野池、上野
イヌタヌキモ	〃	古池、二又池、長迫池、新池、升田池、小松池、中尾池、原田大池
ナガレミズヒキモ	〃	堂ヶ迫池、小松池
ホソバミズヒキモ	〃	新池
エゾミソハギ	〃	綿打池、亀田池、新池
ミズユキノシタ	〃	升田池

あり、池の底まで把握できたとはいえない。水生植物の中には稲の刈り入れ後に溜池の水が落とされ、干潟になった所に出現する種類も多い。しかし、近年、水を落とさない池がたくさん

あり、また、養魚池などでは魚をとった後、またすぐに水を溜めてしまう池もあって水生植物は減少の一途をたどっている。

池全体として見たとき水生植物の豊富な溜池は黒田の古池や長川の綿打池であった。前者ではジュンサイ、ヒツジグサ、ノタヌキモ、イヌタヌキモ、ヒシ、ハス、ヨシ、マコモなど、後者ではガガブタ、ヒツジグサ、ヒシ、マコモ、エゾミソハギなどが池一面に生育している。

町内で見られた保護すべき重要な水生植物を表1—5にあげた。オオバシナミズニラ、ミカワタヌキモ、ヤナギスブタなどは福岡県としての最重要保護植物であり、オニバス、ガガブタ、カワヂシヤなども環境省の指定した絶滅危惧種である。オニバスは唯一、箕田大池に生育している。二つに分かれた池の先端部に群落を形成しており、カワヂシヤは長峡川の上流域に見られる。ジュンサイは町内でも若芽を食用に採取していたといわれ、ヒツジグサも貴重な存在である。

調査のおり、亀田池の土手にタヌキマメ、新池ではミソナオシ、中尾池ではムカゴニンジン、原田大池ではスズメウリといった希少な植物が見られた。しかし、長峡川水系ではホテイアオイの群落がみられるくらいで特筆すべき植物は存在しない。

六 保護上重要な植物

保護上重要な植物として一七種をあげた。その中でノタヌキモ、オニバス、ミズオオバコ、ホソバオグルマは福岡県絶滅危惧ⅠB類、ガガブタ、キキョウ、ヒメヒゴタイ、キセワタは絶滅危惧Ⅱ類、カワヂシヤは準絶滅危惧、キツネノカミソリは情報不足種である。

ジュンサイ きれいな水に生える多年生の浮葉植物で黒田（スイレン科）の古池など三つの溜池にある。葉身は切れ込みのない楕円形で葉柄は楕状につき葉の裏面は赤紫色。若芽や葉柄などに透明な粘液質の分泌物があり、摘み取って食用にされる。古池では昔、舟を浮かべて採っていたと聞く。花は六



写真1—18 ジュンサイ



写真1—19 ガガブタ